

開業の体験とノウハウ伝授

大学病院医師から転身し、西宮市で眼科クリニックを開業した中内一揚さん(46)が、「これから開業する君へ すべて勤務医にささぐ」を出版した。市街地での新規開院は飽和状態で資金的にも難しい中、医師の高齢化で後継者を必要としている現状に着目、既存の医院を継承する手法を紹介している。(佐藤健介)

西宮の眼科院長 中内さんが著書

神戸大医学部を卒業した中内さんは、大阪大病院などを経てシンガポールのアイセンターに留学後、兵庫医科大病院(西宮市)で眼病の周囲にある組織やまぶたなどの疾患に対応する「眼形成外来」を始めた。開業を志したものの、物件の立地や価格が折り合わずに難航。そんな時、知り合いの医薬情報担当者から、阪急西宮北口駅近くの

当者は勤務医時代に入脈をつくっておくべきとする。開業に踏み出せない勤務医に向け、「医大生として難しい論文や実習に取り組み、勤務医になってからもハードな業務に耐えてきた。経営が初めてであっても、「一人社長」の能力は持っているはずだ」と説く。A5判。125頁。エビック刊。1620円。

類を得る▽旧医院のカルテから売り上げを把握して目標患者数を測る―といったポイントを記す。患者の満足度を上げる戦略、スタッフへの気配り術などをイラストと行程表も交えて指南。財務をつかさどる事務長は親類に任せ、医療機器業者や医薬情報担



医師の後継不足解決に向けたヒントを著書で伝える中内一揚さん(西宮市甲風園1、中内眼科クリニック)

神戸新聞報道部医療・科学チーム

FAX 078.360.0629 iryou@kobe-np.co.jp